

同志社大学通信

# ONE PURPOSE

FOR BETTER COMMUNICATION

特集 / こんなときは、こんな施設を使ってみよう！ 大学施設を活用する。  
同志社人訪問 / 日本ハムファイターズ  
片岡篤史さんに聞く



No.126

2001 APRIL

DOSHISHA UNIVERSITY



2001

NO.  
126

APRIL

## COVER STORY

[ 表紙の情景 ]



同志社大学歴史資料館は、京田辺校地の自然系等実験実習棟にある。1階は旧石器時代から縄文時代までの収蔵品を年代順に展示し、2階は生産遺跡、京都の歴史など、テーマごとに展示している。一般公開されているが、選択科目の「考古学」や専門科目「考古学実習」の授業にも使用されている。展示品は文学部考古学資料室が調査、収集した資料と、キャンパス内の遺跡から出土した資料が中心で、銅柄俊夫歴史資料館専任講師は、「戦後の考古学史を体験できる貴重な資料館です。とくに室町幕府の『花御所』が今出川校地と新町校地のちょうど中間に位置していたこともあり、ここから発掘された出土品は日本の中世史を研究するうえで貴重な資料になっています」と解説する。授業で展示品をデッサンしていた古賀聡さん(文化史学専攻2年次生)は、「京田辺キャンパスの近くにも多くの遺跡があり、実習では遺跡に出かけることが多いですね。この資料館を含めて考古学を学ぶうえではとても恵まれた環境にあります」と語る。

開館時間 / 月曜日～金曜日10:00～16:00

昼休みは除く

(入館無料) 夏期、冬期休暇中は閉館

## C O N T E N T S



### 特集

こんなときは、こんな施設を使ってみよう!

## 大学施設を 活用する

2



同志社人訪問

日本ハムファイターズ  
片岡 篤史さんに聞く

8

障害学生支援ボランティア活動について

11

ゼミ・ゼミ おじゃまします 文学部文化学科 : 岸 文和ゼミ

映画にみる映像と

音楽の関係について

13

キャンパスニュース&アナウンスメント

15

ONE PURPOSE コメンタリー

21

本学教員の推薦する VIDEO & BOOK

23

私と「仕事」

25

特集 こんなときは、こんな施設を使ってみよう！

# 大学施設を活用する

大学には、学生の皆さんの大学生活をサポートする施設がたくさんある。目的が決まれば、まずキャンパスで情報収集にあたってほしい。すると、今まで知らなかった意外な施設が皆さんに開放されていたりする。授業を受けるためにキャンパスに来るのはもったいない。そんな思いを込めて、今回は学生の皆さんが利用できる施設の一部をご紹介します。文中の学年は取材時のもの。

## グループ合宿に使ってみたい湖畔の施設 同志社びわこリトリートセンター

昨秋完成した、同志社びわこリトリートセンターは、まずその広大な敷地に驚かされる。丘陵地を開いて造られた敷地内には自然が息づき、木々がオソンをしばい含んだ風を運んでくる。施設は、七棟の建物と五つのキャビンエラスコト三面、グランド一面からなり、テントが十張り立てられるキャンピングアも有している。

JR北小松駅から送迎用のワゴン車で施設に到着すると、中央の管理棟、明鏡館めいぎょうかんに入ると、

フロントで予約名を伝え、利用施設のキーを受け取る。「明鏡館」は、百六十人収容の大食堂があり、回廊で他の六棟と結ばれている。すぐ



フロントで利用施設の鍵を受け取る



後ろに礼拝堂のある、安息館あんそくかん」、左手に大小七つのセミナー室を持つ「革袋館(かくたいかん)」が隣接する。宿泊施設は三棟あり、「深山館しんざんかん」、「大沢館だいたくかん」は洋室、「漁人館りょうじんかん」は和室になっている。さらに、浴室棟の「活水館かつすいかん」がある。施設の利用経験を持つ中山義基さん(文学部三年次生)

に同行しながら、各施設を見て回ることにした。まず洋室棟である「深山館」に行く。「深山館」はシングル、「大沢館」はツインで、新島裏の愛唱句、深山大沢、龍蛇を生ず「から命名された。室内はまるでホテルだ。ソファなどのインテリアが美しく、何よりも窓から見える景色が美しい。「深山館」「漁人館」両棟の部屋の窓はすべて琵琶湖を望むように設計されているのだ。

「活水館」は、男湯、女湯、そしてハリアフリーの三浴室からなる。浴場は広々としていて、湯量たっぷりの浴槽に体を浮かべれば一日の疲れも洗い流せそうだ。お湯の温度も心地よいです。と中山さん。深山館にもとる途中、「革袋館」のセミナー室を利用して、あるグループがあったので、中の様子を拝見する。一行は「コルプルー」グループの皆さんで、ニテルプ総勢二十五人で合宿にやってきました。セミナー室を使った議題は、間近に迫った混声合唱団ごまぐさとの合同コンサートについて。四時間単位で借りられるので余裕を持って会議が進められます」と好評だ。マイクホンやオーディオドカメン、プロジェクターなど設備も揃っている。聞いてみると、「コルプルー」グループの別のグループが漁



「革袋館」のセミナー室



「漁人館」の室内

人館にいらるといので、和室の様子を拝見することに。和室は六人部屋を中心に二十室あり、最大百六十人が収容できる。グループで利用するにはやはり和室の方が和める。親睦も深まりそうだ。皆さんに施設の感想を聞いてみると、「僕らのグループは合唱の練習にきているのですが、宿泊できてしかも合唱の練習もできる環境というのは、なかな

がありません」と、すっかり気に入った様子。中山さんが、以前利用したときは、キャビンに泊まりました。これからのシーズン、リゾートセンターを利用するならば、やはりキャビンです」と勧めてくれるので、そちらに行ってみることにした。明鏡館からは歩いて五分くらい。林間の遊歩道が足裏に気持ちよい感触を伝えてくる。五棟あるキャビンのうち



散策用の遊歩道

キャビン外観

三棟が使用されていた。宿泊していたのは法  
学研究会の四年次生たち。今日はみんなで鍋  
パーティーだという。食材を買い出しに行か  
ないといけないが、キッチンはもちろん浴室、ト  
イレが完備されているし、大きな冷蔵庫もあ  
るので心強い。寝室は二階で、ウッドデラスが  
付いている。小鳥のさえずりで目を覚まし、テ  
ラスで熱いコーヒーを飲む、そんな朝が迎えら  
れるのだ。

夕食時になり、大食堂に入ってみると、コ  
ルフレューゲルの夕食が始まっていた。メコー  
は定食A(洋食)。食事は、セルフサービスが原  
則だ。その分、出されるメニューはお値打ちで、  
皆さんの食も進んでいる。大野英器支配人に  
よると、定食のほか、フランス料理や一品料理  
もお選びいただけますし、鍋物もご用意して



キャンピング内部の  
ダイニングキッチン



テントサイト横のファイアー広場

います。学生さんですと、ヒップホップスタイルも  
お勧めです。ただし、これは三十名様以上で  
承っています」とのこと。

最後に中山さんは、今日はいくの天気  
でしたが、敷地内には四つの遊歩道があり、古  
墳群や風車など散策には事欠きません。もう  
少し暖かくなったら、キャンパの準備をして訪  
れてみたいですね」と語りてくれた。



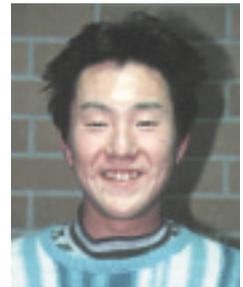
160人収容の大食堂



JR湖西線 京都より北小松まで普通電車で1時間弱、  
快速電車で約35分 JR湖西線 北小松下車、北へ徒歩25分  
送迎可(前日までに現地に直接申込)

所在地 〒 五二〇〇五〇一 滋賀県滋賀郡  
志賀町大字北小松字山道一六六

## びわこリトリートセンター



今回、案内してくれた  
中山 義基さん

「自然がたっぷりてゆっくりつづげます。  
一度利用するとまた来たくります」

施設部管財課 新町校地 臨光館(二階)  
TEL 〇七五二二五二二一三二六五  
FAX 〇七五二二五二二一三〇〇八  
京田辺校地総務課 京田辺校地副業館(一階)  
TEL 〇七七四六六五七〇一〇  
FAX 〇七七四六六五七〇〇九

利用にあたっては、予約が必要になります。  
右記に使用施設を予約の上、利用してください。

# 映像と音声で、体験的に学んでみたい マルチメディア・ライブラリー



マルチメディア・ライブラリー館内(ラーネット記念図書館)

同志社大学には、京田辺と今出川の両キャンパスに図書館があることはご存知だろうがラーネット記念図書館一階正面玄関より左奥へ今出川図書館地下二階にあるマルチメディア・ライブラリーの存在を知る人はそれほど多くなく、実際に利用したことのある人となるとさらに少なくなるだろう。その原因の一つは、マルチメディア・ライブラリーで何ができるか知らないうちに起因すると考え、改めて紹介してみることにする。

利用方法は、ラーネット記念図書館も今出

川図書館も同じである。学生証を呈示し、入室すると、書架にビデオテープ、LDなどが並び、ビデオタイトルだけで二千タイトルあり、選んだレコーシをそのまま借り、ブースで利用することができる。図書と違って貸し出しはされていないので、ライブラリー内のみの視聴になる。書架に希望のタイトルがない場合は、目録リストから見つけ出すこともできる。その場合は、図書館内の別のコーナーに所蔵されているので、学生証と引き換えに利用カードとソフトを持ってマルチメディア・ライブラリーで視聴することになる。カバーしているジャンルは、映画なら不朽の名作から文化財や科学、芸能、美術などの映像資料などがあり、ビデオレンタルショップでは借りられないものが多いのが特長だ。語学のリテラシー教育に欠かせないオーディオ系のカ



ビデオブースでテープを視聴

セットテープやCDも同じ手順で借りることになるが、こちらでも英語、ドイツ語、フランス語、中国語はもとより、ポランド語やスロヒリ語まで揃っている。

ここで注意してほしいのは、ブースにはビデオブースとマルチメディアブースの二種類があること。ビデオブースではビデオテープの他、衛星放送を通してBBCやCNNなどの海外ニュースや放送大学番組が視聴できる。一方マルチメディアブースでは、CD-ROMデータベースが利用できる。CD-ROMは単体で使うこともできるが、ネットワークを利用するのが便利だ。画面からタイトルメニューを呼び出すかキーワード検索からアクセスできる。こうして呼び出したデータはライブラリー内設置のプリンターを使って出力

できるが、これは一枚十円の有料サービスになっている。フォーマット済のフロッピーディスクを持参すればダウンロードも一部可能で、こちらは無料。レポートや論文作成には、心強いサポートをしてくれる。

以上見てきたように、マルチメディア・ライブラリーは、実に活用用途が広い。大学が有するソフト資産を生かすという意味で、もっと利用してほしい。分からない点があれば、補助員が教えてくれる。レザレンスカウンターに行けば学習目標にそった独自の利用法が見出せるかもしれない。



## 体育系サークルが利用できる合宿施設 体育ハウス1



体育ハウス1の玄関

京田辺キャンパスには、二つの体育ハウスがある。そのうち体育ハウス1は短期合宿所として広く開放されているので紹介したい。この施設は、体育系課外活動団体なら利用でき、その団体と合同合宿する学外者にも開放されている。施設内には、十二人収容できる洋室が二室、十四人と八人収容できる和室がそれぞれ六室、四室ある。浴室ももちろん完備していて、二十人くらいなら一度に入浴できる広さだ。さらに女子専用浴室が増設され、四月から利用できるようになり、女子学生にとっては朗報だ。

利用にあたって、館内での喫煙、飲酒は禁



和室(8人収容)

和室(14人収容)

止されている。通常、体育ハウス1を利用する団体は、起床後八時前後に施設を後にし、デイヴィス記念館横の食堂オリンピアで朝食をとり(要予約)、練習を始める。昼食はさんで再び練習に入り、夕食はオリンピアでとるか自由時間にして、再び夜に体育ハウスに集合しているようだ。日曜日も予約さえしておくとオリンピアで食事ができるので不自由はない。洗濯機が四台があるので、洗濯の心配もいらない。施設利用料が六百円(学外者は千二百円)と経済的なため、短期の合宿にぴったりの施設だと言える。

一階には四十五人収容のミーティングルームがあり、ビデオデッキ付きの大画面テレビで練習や試合中のプレーがチェックでき、今後の練習や試合への対応を考える場となっている。このミーティングルームは、宿泊しなくても使用できるため、練習後には必ずここでミーティングを行っている団体もある。ミーティングルームの使用料は無料だ。

体育会アーチェリー部が春合宿で施設を使っていたので主務の武本泰幸さん(法学部三年次生)に話を聞くと、春合宿は体育ハウス1を使うのが恒例になっています。理由は経済的です。練習場が近いので時間の無駄がありません。それに同志社大学の射場は関西一の規模なのでここで合宿しない手はありません」と語る。施設利用のポイントは、合宿時期が各サークルと重なるケースが多いので、最低でも一カ月前に予約しておかないと希望通りの部屋が押さえられないことだそうだ。

学友会登録任意団体でも利用できるため、合宿を計画している団体は、ぜひ問い合わせ



体育ハウス1で合宿していた  
体育会アーチェリー部の武本さん

問い合わせ先…学生課(京田辺校地)

ラウンジ棟 一階

TEL 〇七七四(六五) 七四一〇

FAX 〇七七四(六五) 七四〇九

## 建学の精神に触れてみよう！ 同志社のキリスト教関連行事

同志社大学の建学の精神のひとつに「キリスト教主義教育」がある。豊かな知識を持つとともに、自由と愛と、そして個々の人格を重んじ、熱い心を持って国際社会に貢献する人を育むことを目的としたその精神は、自由で明るい学風の根幹をなしてきた。最後に、そうしたキリスト教主義教育に触れることができるプログラムをいくつか紹介してみよう。

### チャペル・アワー チャペル・コンサート

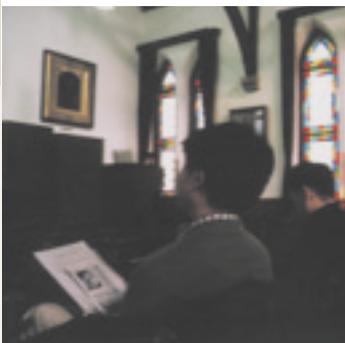
開講期間中、学内外のさまざまな分野の方々を説教者・礼拝者、あるいは講師・講演会として招き、人間の諸問題をめぐって、毎週発言していただいているのが、チャペル・アワーだ。京田辺チャペル・アワーが京田辺キャンパスキリスト教文化センター集会室で、水曜チ



ャペル・アワーが今出川キャンパス神学館礼拝堂で、それぞれ毎週水曜日十時四十五分から開催されている。また毎週火曜日には神学館礼拝堂で十八時五分から火曜チャペル・アワーが開催されている。年三、四回、パイプオルガン演奏などの宗教音楽を楽しむことができるチャペル・コンサートが、主に今出川キャンパスの神学館礼拝堂で開催される。

### メディテーション・アワー

今出川キャンパス礼拝堂（チャペル）で、オルガン演奏に耳を傾けながら、心静かに瞑想するひとときを設けている、これがメディテーション・アワーである。毎週月曜日・金曜日（夏期休暇期間およびEVE以降の時期を除く）十三時から四十分間開催される。普段あまり入ることがない礼拝堂（チャペル）の内部を見る絶好の機会でもあり、自分自身を内側から見つめ、穏やかな安らぎを求めたい方にぜひ一度足を運んでもらいたい。



### クリスマス 燭火賛美礼拝

毎年十二月、京田辺キャンパスの新島記念講堂でクリスマス行事の一環としてクリスマス燭火賛美礼拝が行われる。聖歌隊やハンドベルなどの本学サークル、さらに地元京田辺市の合唱団なども参加して多彩な内容で繰り広げられる。会場は終始ロマンチックな雰囲気にも包まれ、毎年多数の参加者を魅了している。

### クリスマスツリー 点火式



昨年、同志社創立百二十五周年を記念して今出川キャンパスにクリスマスツリーが設置された。十二月五日、薄暮に讃美歌が流れるなか、西門近くのヒマラヤ杉に飾られた三千五百個のイルミネーションを、一斉に灯す点火式が行われ、他の建物のライトアップとあいまってキャンパスは幻想的な雰囲気をもたらした。昨年は十二月二十五日まで毎日十六時三十分から二十二時三十分まで点灯された。今年度も同様の点火式が行われる予定なのでぜひ参加してみたいかな。

# 日本ハムファイターズ

# 片岡篤史さんに聞く



沖縄・名護球場にて

土井 オープン戦を拝見しましたが、仕上がりは順調のようですね。

片岡 今年は、自分のことよりフォア・ザ・チームです。投打のパフォーマンスがとれ、戦力的には十分優勝が狙える位置にいるので、チャンスですね。高校、大学と、それぞれ優勝の経験はありますが、プロに入ってからはまだないので、ぜひペナントレースを制したいですね。個人的にも、プロに入って十年目の節目の年ですし、今年優勝しなければいけないだというくらいの気持ちで臨みたい。

土井 昨年は、百三十五試合フル出場を果たされましたね。

片岡 来シーズンは、百四十試合と例年より五試合多くなります。しかし、全試合出場することが難しいことではなく、むしろ私自身はレギュラー選手に課された最低限の義務だと考えています。春季練習もそれを目標にやっているつもりです。そもそも、レギュラーだからという甘い考えは、プロでは通用しません。後輩にもよく言っているのですが、レギュラーとはベンチであり、控えとはチャンスなのです。レギュラーはつねに控えに回される危機にさらされ、控えはつねにレギュラーになれるチャンスがあるわけですから。

## 片岡 篤史さん

【1993年商学部卒業】

1969年生まれ、京都府出身。PL学園時代は、立浪選手（現中日ドラゴンズ）や野村選手（現横浜ベイスターズ）らとともに全国制覇を経験。同志社大学でも2年次に、明治神宮野球大会で優勝を経験する。日本ハムファイターズ入団後は、恵まれた体格とパワーで頭角を現し、クリーンナップをまかされるとともに、選手会長やキャプテンを歴任。精神的支柱としてチームを引っ張る。また1995年から東京の児童養護施設「愛隣会目黒若葉寮」の子供たちを東京ドームでの試合観戦に招待し、シーズンオフには慰問活動続けるほか、「くみやま共同作業所」への寄付を通して出身地京都との交流も大切にしている。これらの社会活動が評価され、昨年、広く社会活動を行ったプロ野球選手に贈られる「ゴールデンスピリット賞」の第2回受賞者に選ばれた。



土井 そういう意味では、プロとアマの違いは、レギュラーの中をフルにしている点ですね。片岡 土井くんはマネージャーだと聞いているけど、部室はきれいになっていますか？

土井 残念ながら、散らかっています。

片岡 それじゃだめだ。私たちの頃は、そういう面もとても厳しかった。コーチがホテルマン出身だったこともあって、礼儀から身の回りのことまで、事細かく注意されたものです。もちろん理由なく授業を休むなんて許されなかった。当時はつらかったけど、お陰でい学生時代が送れたと今は感謝しています。部員も、二十七人と少なく、怪我もできない緊張感の中で練習をしていましたね。プロというのは確かに大変だけど、学生時代からそうしたプレッシャーを受けていたし、だからこそ神宮大会で優勝できたのだと思う。

土井 プロになることに迷いはありませんでしたが。

片岡 なかったですね。高校時代の同期である中日の立浪和義選手や横浜の野村弘樹選手がすでにプロで活躍していたので、自分もプロ野球へ入るものと決めていたようなところがあった。彼らを基準に考えると、



自分も必ずプロでやっていたらという自信がありました。ただプロになってみて、ああ学生野球とは違う。これがプロというものなんだと感じるときがあります。それは、厳しい練習を課されたときとか、先発をはずされたときではなく、シーズンが終わると、毎年誰かが球界を去っていく、その後ろ姿を見たとき、これがプロなんだとひしひしと感じますね。

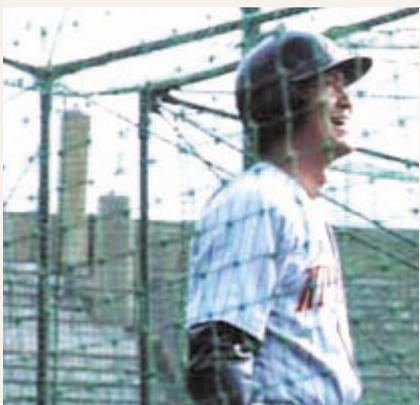
土井 昨年、顕著な社会活動を行った「プロ野球選手に贈られる「ゴールドエンストリット賞」を受賞されましたね。

片岡 別に大それたことをしたわけではありません。球団の先輩だった金石昭人さんに誘われて、養護施設の子供たちを東京ドームに招待し、シーズンオフには施設を慰問に訪ねていました。その後、金石さんは引退され、私とその活動を引き継いだわけです。正直に言いますと、「ゴールドエンストリット賞」の受賞は確かにうれしかったのですが、それ以上に感激したのは、選考委員の方々が、受

賞の理由として、私がこつした活動を六年間続けている点を高く評価していただいたことです。

土井 子供たちとの交流は、野球をするうえでいい刺激になっているのでしょうかね。

片岡 子供たちとの交流といつても、シーズン中は会うこともできないので、オフに施設を訪れいっしょに野球を楽しむことくらいです。彼らと約束した成績は残そうと頑張っていますが、何とかがもう少し深いところで、彼らの存在を感じるんですね。まず野球ができる喜び。成績がどうのこうのという以前に、私はこつして大好きな野球ができる、それだけでも感謝すべきだと考えるようになっていました。それからもう一つは、彼らのためにも軽率な行動は決してしないようにしよう、私生活を律するようになってきました。プロ野球選手というのは何かとスワットを浴びるし、有名だから許されるといふ面もあります。しかし、それ以前に社会人として守るべきものがあるんだと強く意識するようになりました。





土井 プロ野球選手だからそうした活動にも脚光を浴びたという面もありますね。片岡 その通りです。阪神大震災の被災者を励まそうと寄付をしたイチロー選手の例にもあるように、プロ野球選手が社会貢献活動に関心を持ち出したのはとてもいいことです。半面、華やかにとりあげられるだけに注意しないといけない面もあって、球団の後輩たちを誘わないのもそのためです。社会活動の意義を知って私に続いてくれるのであればうれしんですけどね。一流のプロ野球選手ともなれば、サラリーマンでは考えられない高収入を得ることができるし、同世代の人なら会うこともできないような各界の著名人を紹介されることもあります。しかし、私たちは何者かといえは、野球がう

まいだけなのです。そのところを誤解せず、かといって卑下することなく、そうした方々との交流を通して自分を高めていければいいと思いますね。

土井 片岡さんの将来の夢は？

片岡 遠い先のことは考えず、とにかく今シーズンの優勝をめざすことです。今はそれ以外のことは考えないようにしています。

土井 最後に、同志社の後輩、そして僕たち野球部の後輩にメッセージをお願いします。

片岡 高校時代、甲子園で全国優勝を果たしました。そのとき、なんで、地元京都の高校で優勝を目指さんかったんといわれました。だから大学は、京都の大学で全国制覇しようと思志社大学に進みました。同志社は大好きだったし、こうしてプロ野球界にいても、各界で活躍する校友・同窓が応援してくれます。きつと後輩の皆さんも、社会に出ると同志社大学を卒業したことを幸せに思い、誇りにすることだろうと思います。ただ学生である間は、両親に学費を出してもらっている人も多いだろうし、クラブ活動をしている人なら、大学から部活動を補助してもらっている立場を忘れないでほしいと思います。別にもっと勉強をしないさい、もっと練習に励みなさいとプレッシャーをかけているのではなく、それだけ期待を背負っているということです。このことを忘れないで学生生活を送ってほしいですね。

土井 ありがとうございます。来シーズンはぜひ優勝してください。期待しています。

## INTERVIEWER

## 土井慎太郎さん

【法学部法律学科】 2年次生

小学校3年生のときソフトボールを始める。中学校、高校と野球部に所属し、野球を続けてきた。大学でも硬式野球部に入ったが、持病の肩が悪化。2年次からはマネージャーとして、選手たちをバックアップする道を選ぶ。主務を助けて、練習メニューを検討したり、合宿の手配などを行っているが、全国の高校から優れた才能を発掘するスカウト活動もやってみたいと抱負を語る。

(学年は取材時のもの)



野球人としてまた社会人として、自らを厳しく律していく姿勢にプロ・スピリットを感じました。

片岡さんとお会いするのは初めてでしたが、バットやボールを贈っていただくなど、野球部は普段からお世話になっています。野球部の現状を報告すると、学生時代を振り返りながらいろいろとアドバイスをいただきました。肩の故障で選手としての道を断念した僕自身の話になると、「偉いね。きつと私なら退部している。ぜひ、マネージャーとして頑張ってほしいね」と励ましていただきました。このまま続けると、まったく野球ができなくなってしまう。しかし、ここで一旦選手生活を休むことによって、ひよっとすると将来また野球ができる体に回復するかもしれない、そんな希望を残しての選択でした。華やかなスポットライトを浴びる場でなくてもいい。地元兵庫県にもどって少年野球の指導というかたちでもいいから野球を続けたい。片岡さんの言葉を借りると、もう一度「野球ができる喜び」を味わってみたいと思っています。

# 障害学生支援 ボランティア活動について

二〇〇〇年五月、本学に、障害学生の正課授業の人的支援を目的として、障害学生支援ボランティア制度が発足した。呼びかけに応じてボランティア登録してくれた学生は二十三人であった。昨年度の活動は、今出川校地における、商学部に在籍する二人の聴覚障害学生へのノートテイクの支援であり、試行錯誤しながらも二人の期待に精一杯応えるものだった。本制度が発足したきっかけは、聴覚障害を持った平川時雄君(商97)からの障害学生への授業補助の要望だった。入学当初、彼は自力で授業に臨んだものの、大学での授業は思っつまかせず、広い教室に響くマイク

の声を聞き取ることは困難だった。それでも、誰かにノートテイクを依頼することもできずに半年が過ぎた。その後、手話サークルに入部したことで協力者が現れたが、個人の善意に頼った支援は不安定さを拭い去れないものであった。

ついに、友人らとともに、ノートテイクによる授業補助者を募ることを大学へ申し出ることになった。大学はその要望を受けて、「障害者問題委員会」委員長 井岡勉文学部教授(注)で、障害学生への新たな支援策を協

議した。その結果、本制度が生まれた。本制度は、学生ボランティアによる障害学生の自立支援と学生の支え合いを基本としたものである。制度の運用を行なうために、関係者による、障害学生支援連絡会(注)が組織され、派遣の準備や登録学生との連絡調整が行なわれている。ただ、この制度も登録者があつてはじめて成り立つものであり、学生の自発的な善意に頼っているのが現状だ。

登録は一セメスターごとに行われ、その際に、ノートテイク、対面朗読、代筆、ガイドヘルプなど支援できる内容を申し出る。派遣者は、依頼内容と時間割をもとに決められる。ただし、代理などが必要な場合は全員で補っていく。一方、連絡会は、活動の質を高めるとともに、ボランティア学生がやりがいを持つるように、養成講座や活動報告会を実施し、さらに、奨励金を支給したりと、側面からの支援を行っている。ノートテイクは、要約筆記ともいわれるが、そのことは、最近、広辞苑にも掲載が実現できた。婦人らの要約筆記グループの活動がそのきっかけとなつたと聞いている。ボランティア活動のすそ野の広がりを感ずることがらだ。

二〇〇一年度、障害学生  
支援ボランティアの登録について  
主な活動は、ノートテイク、対面朗読、代筆、ガイドヘルプなどの授業補助です。時間割等調整のうえ、活動を行っていただきます。詳細は学生課までお尋ねください。

さて、障害学生支援ボランティアとして活動した学生は、一年を振り返って、どのような感想を持っているのだろうか。とにかく何か役に立ちたいと思つて参加した濱松夕子(法98)は、「春秋を通した経験で、先生の講



義のくせも理解し、要点をつかめるようになった」と全くの初心者だった自分を振り返り、継続することの大切さを語ってくれた。ノートイックの上達は知識よりも経験と言われる。しかし、人の話すスピードは思いのほか早く、確かな文字にしていることは非常に難しい。活動に携わった学生から異口同音に聞かれたことは、「専門用語は他学部生にとっては難解だった」の説明や、「あれ、これ」などの指示語で伝えられる場合はなおさら大変だった」というものだ。そして、何よりも、講義での先生の協力が欠かせないことが強調されていた。

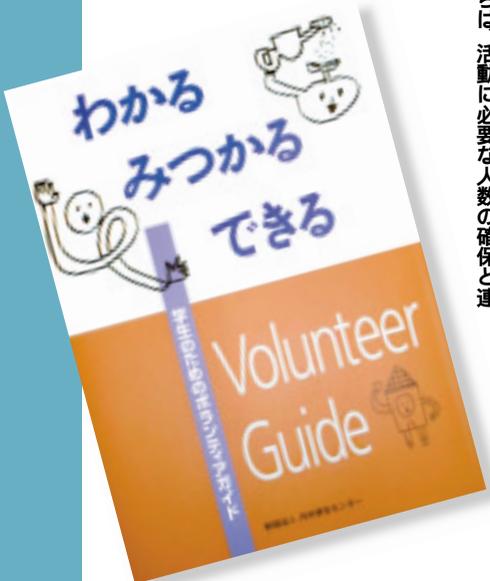
活動を通して得られたものは何だったのだろうか。学友の要望に応えたいという充実感、さらには、ある学生は、目的をひとつにする者同士の交流がはかれ、他学部の授業に触れたことにより自分の世界が広がったという。

ボランティア学生の声は、苦勞をにじませながらも、前向きな響きとして聞こえてきた。会沢みゆきさん(女文97)や佐々木茜さん(法98)からは、活動に必要な人数の確保と連

絡体制の整備が望まれ、今後の課題となった。そして、制度ができる以前からノートイックのボランティアを行っていた谷口幸穂さん(女文97)や小野雅子さん(女文97)は、「一年前の状況から考えると二〇人以上の学生が支援に集まっていることは驚きだ。中心メンバーが卒業するのでも心配もあるが、後輩の活躍を期待したい」と口を揃え、後輩へハトンを渡した。

世界のボランティアの父といわれるアレック・ディクソン(Alec G. Dickson)は、「ボランティアは『助け合いの中で学ぶ』ことだとい、その行動は、ボランティアをする側からされる側への一方通行のものでなく、できる人々が、必要とされることにもって自己を発見し、学び得ることである。双方向のものであると意義づけられている。

今後、この制度が多くくの学生の自発的な協働作業を通して、その目的をかなえ、さらに、大学「ミニ」の豊かさを高めるものになっていくことを願いたい。(学生課)



参考図書

『わかる みつかる できる』  
— 学生のためのボランティアガイド —  
(財団法人内外学生センター)

## 学生生活を介助犬がサポート

車いす生活を送っている館林千賀子さん(女文01)は、介助犬「アトム」の助けを借りて大学生活に臨みます。

介助犬とは、障害者と共に暮らし、その日常活動を補佐し、障害者の自立を可能にし、これによる障害者の自尊心、自制心の向上、精神状態の改善等を目的として、特別に訓練された犬です。

「仕事中はむやみに声をかけたりしないでください。」

介助犬がバックパックを背負っている時は仕事中というサインです。仕事中は、使用者の指示に従い、吠えたり、餌を食べたり、排便をしたりの、勝手な行動はしません。しかし、むやみに触ったり、餌を与えたりすると、気が散漫になり仕事に集中できなくなります。

皆さんも温かく見守ってください。

# 映画にみる映像と音楽の関係について

美学及芸術学を学ぶ岸ゼミは、毎週一人のゼミ生が研究発表を行い、これに対してみんなが疑問を投げ掛ける質疑応答形式で行われる。発表テーマは、演劇、音楽、美術…とさまさまで、対象分野の広さを窺わせる。その日のテーマは一九九九年のカンヌ映画祭に出展されたロス・カラククス監督作品『ポラックス』について、問題となる映像と音楽の競演シーンを、ビデオと音楽テープを駆使しながらの発表となった。



岸 文和  
【文学部教授】

文学部文化学科  
美学及芸術学専攻

「岸 文和ゼミ」三年次収録時



久世 すでにご覧になった方もおられると思いますが、今日取り上げる映画『ポラックス』のあらすじを紹介しておきます。

主人公ピエールは、新進気鋭の小説家、高名な外交官を父に持ち、母と豪邸で何不自由なく暮らしている。結婚を目前に控えたある日、彼の前に異母姉だと名のる黒髪の女性イザベルが現れる。たどたどしいフランス語、運命にもてあそばされた流浪の半生、ピエールの目にイザベルは、父の、そして名家ヴァロンドール家の薄汚れた血の犠牲者に映る。彼は裕福な暮らしを捨て、フィアンセを裏切り、イザベルと生活をともにすることを決意し、闇の世界へ、貧困と葛藤のうちに、みずから命を断つていく。

『ポラックス』は、十九世紀の作家メルヒルの原作を映画化したものですが、私が注目したのはこの映画における映像と音楽の関係です。私が最初にこの作品を観たとき、フランスの感覚的な映像に魅せられることも、心の深いところに働きかけてくる「千一」シヨナルな音楽に感動しました。それはなぜだろうと考えてみると、映画音楽も活躍する作曲家ミッシェル・シオンが、音楽はまず目立たないものにしなければならぬ」と述べているように、通常映画における音楽はわき役に過ぎません。映画のサウンドトラック盤を聞いて、何か物足りないものを感じるのはそのためです。しかし、この作品では、映像が主で、音楽が従という映画の常識を超えた、対等ともいえる関係が生み出されているのです。



岸 では、そのシーンを見せてもらい、みなさんの意見も聞いてみましょう。

久世 このシーンは六つのショットからなっていますがカメラのアンクルが変わったり、マップからロングショットに切り変わったりするタイミングで音楽がリズムを変えていることに気づいていただけましたか。音楽の主旋律は第一バイオリンが担当し、第二バイオリンが一定のリズムを刻んでいます。映像のリズムと第二バイオリンがシンクロしていて、上からのカメラアンクルが下から見上げるアンクルに切り替わるとき主旋律も転調していきます。

大田 確かに問題のシーンを見せてもらったのですが、ヒトルの葛藤が伝わってくるようです。

久世 この作品は、原作をもとにまず音楽ができ、音楽に感動したカラックスが映像をつけたそうです。

岡部 冒頭にストーリーを紹介してもらいましたが、このシーンはストーリーの中のどの部分にあたるのですか。

久世 ヒトルがすべての過去を捨て、姉かも知れないイザベルと暮らすことを決意する場面で、奇岩の下に横たわるシーンはヒトルが闇の世界に入ったことを象徴しています。予告編ではヒトルの顔のアップがありますが、本編ではカットされていました。

山田 私はこの映画を観ましたが、印象としては言葉を大切にしている、音楽はむしろ抑え気味だったように感じましたが。

久世 おもしろいように音楽が多用されている映画ではありません。メインとなるテーマ

曲は二つあって、今回の発表のテーマにしたのはその中の一曲です。ほかにイザベルのテーマとか、光のテーマとかがあって、大切な場面で効果的に使われていました。

岸 ゼミがスタートして一年近くになりましたが、発表の仕方について何度も言うてきましたね。まず前提があって、次に問題提起があり、先行研究について述べてから仮説を立て、手続きをふんで立証する。この手順をしっかりと押さえていないから岡部さんのような質問が出てくるんです。あらずじは紹介していただいたが、問題提起との関係がもう二つはきりわからなかったですね。

孝久 前提となっているのは「ポラックス」を観て感動した。なぜ感動したかというのが問題提起で、結論は映像と音楽が主従の関係を超えてシンクロしているからという事です。しかし、そうした映画は探せばほかにもあるのではないですか。

戸田 その問題もありますし、映像と音楽についていろいろと語られていて、当然久世



さんが初めて語るわけではありませんね。調べましたか？

久世 共鳴関係について述べている評論は確かにありました。しかし、私は「ポラックス」における音楽と映像の関係は共鳴ではなく共闘であると考えました。

岸 これは重要なポイントですね。先行研究として誰がどのような発言をしているかをしっかり紹介し、従来の説では不十分である、あるいは間違っているから私はこういふ仮説を立てましたと、論旨を明確にしないとけません。

戸田 久世さんは「ポラックス」における音楽と映像について論じながら、音楽が先にあり、これに映像をつけたというカラックスの制作手法まで論及しようとしているから話がややこしくなるのではないのでしょうか。

岸 映画の研究というのは難しいですね。シナリオについて考え、映像と同時に音楽についても語らないといけない。それだけにしっかりと見取り図を描いてあげないと、聞き手の負担が大きくなります。ゼミ発表とというのは研究内容ももちろん重要ですが、そうしたプレゼンテーションの技術を身につける場でもあります。論旨を簡潔にまとめ、議論の相上り上手にのせられるような発表を心がけましょう。



# CAMPUS NEWS



キャンパスニュース&アナウンスメント

# ANNOUNCEMENT

記載されている学年は取材時のものです。

## スキー全日本 学生選手権で 同大生チーム 初優勝



一月十二日、新潟県妙高高原で開幕したスキーの第七十四回全日本学生選手権の男子フリーストリレーで、スキー部の山田琢也さん(四年次生)、服部正秋さん(三年次生)のチームが優勝した。創部六十一年目の快挙だった。フリーストリレーは、一周一・七五キロのコースを交互に三周ずつ延べ一・五キロを滑る競技。交互に滑るので、休んでいる間にいかに体力を回復させるかがポイントでしたと服部さん。体力を温存した山田、服部組は残り二周に入ってからぐんぐん順位を上げ、ラスト一メートルで中央大学チームを抜き、歓喜のゴールインを果たした。

スキー部の男子部員は七人という小所帯だが、「一人ひとりが目的意識を持って練習を積んできました」と服部さんは振り返る。密度の濃い練習を積み、自信を持って競技に臨めたのが勝因だったようだ。

## 京都発の「笑い」 を全国へ。 6人組コント グループに注目

昨年八月、コントグループ「G地1(じいちいち)」が結成された。メンバーは、本学卒業生の大木智洋さん(一九九八年卒)、近藤真広さん(一九九九年卒)、吉森健陽さん(二年卒)と在学生の野山幸俊さん(四年次生)。



藤井裕久さん(三年次生)、大北隼也さん(三年次生)の六人。  
「喜劇研究会の活動は、卒業してしまつとおしまひ。これではあまりにも寂しいのでグループの結成を思い立ちました」と、野山さんは語る。

活動母体である喜劇研究会のEVEのライブ会場が、G地1の神学館地階(一番教室)であったこともあり、そのままグループ名になった。昨年十一月には、大木さんの書き下ろしによるコント「シールが何だ、ベタで悪いかを引さげて、大阪でライブを敢行。吉本にも松竹にも属さない異色の笑い。十分な手ごたえをつかんだ。大木さんは、僕らの狙いは、クスクス笑いや含み笑いではなく、単純明快な笑い。もちろんクオオリティにおいて、ブランドに負けるつもりはありません」と力強く語る。今後は、六月九日に地元の京都市北文化会館でライブを行うほか、三カ月サイクルの活動を予定している。「今こそ、お笑いの本場は大阪ですが、芸能の本場は歴史的にも京都。僕らは、大阪とは違った京都発の笑い、全国制覇をめざします」と熱く語ってくれた。

「G地1」第二回公演は、  
六月九日(土)京都市北文化会館  
創造活動室(時間未定)

お問い合わせ

〇九〇三八六二〇九七八(藤井)

## 本学大学院生が 男性諸君に 「干渉」を送る エッセー集を出版



「男性がよかれと思ったことも、女性からみると、本当は『こじつけてほしい』の『こじ』がありますよね」と語る田中雅子さん。総合政策科学研究科博士課程(前期課程)の一年次生。小さいころからの夢だったというエッセー集を昨年十一月、出版した。

田中さんは、帝塚山大学卒業後、京都大学医学部付属病院教授秘書、シルクロード博覧協会「コンパニオン」を経て、現在羽衣学園短期大学で秘書学概論、秘書実務を教える大学教員。一九九九年、神戸新聞に「エッセー」、田中雅子のマルチメディア辞典「働く人にエッセーを送る」を連載。さらに同新聞社ホームページにも、田中雅子の世紀末マナー講座」を連載。このコーナーへのアクセス数がサイトで一番多かったことから、出版社から声がかかり、目からウロコ……こんな男に女は弱い」の発行となった。

個人的には仕事で悩む人向けの「エッセー」をまとめたかったそうだが、出版社から「仕事に悩む人は、エッセーを読んでいる余裕はないでしょう」と言われ、男性に的を絞ることにしたという。でも、私のスタンスは基本的には同じ。エッセーを通して、人にエッセーを与えたいのです」と話す。大学院では、「ビジネスマナーは企業文化の視点から研究中。田中さんは、大学教員を続けていくうえで確となるような論文にしたいと思っています」と目を輝かす。

田中さんのホームページURL  
<http://www.tanaka.masako.com>  
『目からウロコ……こんな男に女は弱い』は今出川、京田辺両校地の書籍部で販売中。

## 同志社交響楽団 二〇〇一年 ヨロツパ公演

「クラシック音楽の本場、ヨロツパでぜひ演奏会を！」

「この大きな夢を実現すべく、私たち同志社交響楽団は全日程九日間に及びヨロツパ公演をおこなってきました。」

今回の公演は、前回のドイツ公演(一九九八年)に引き続き、今後三年ごとに定期的に海外公演をおこなっていく

ための第一歩といえる企画で、一九九九年には海外公演実行委員会を発足させ、じっくりと時間をかけて取り組んできました。長岡京記念文化会館での出発演奏会、そしてドイツのミンヘンとオーストリアのグラーツでの計三公演をおこないました。

曲目は、日本の作曲家である大栗裕の「大阪俗謡による幻想曲」、そしてオーストリアの作曲家グンマーラーの「交響曲第一番」を選び、日本に根づいた西洋音楽」と「伝統を汲む本流の音楽」を対比するようなかたちで演奏しました。

二〇〇〇年に入ってから、私たちのできる最高の演奏をすべく、例年の定期演奏会や同志社メサイナ演奏会のあいだを縫って練習をこなし、来るべき本番に備えました。

日本での出発演奏会を終えると三月四日に開空を出発し、ヨロツパで第一回目の演奏会場となるドイツのミンヘンに着きました。ここは、近代的中に伝統的な建物が混在する魅力的な都市でした。ヨロツパでは日本と違い、アマチュアで活動する音楽団体が少なく、練習会場の確保に苦労しましたがなんと、レオパールのワンフロアを借りることができ、営業が始まるまでのお昼

の時間帯を使って練習をしました。こうして迎えた、ドイツ最高クラスの本ル・ハラクスサルでの演奏会では、緊張の中にもすばらしい響きに包まれて演奏できる喜びを味わうことができました。

翌朝、その感動が冷めやらぬうちに、バスにて次の演奏会場となるオーストリアのグラーツに向けて出発しました。途中二時間ほどたちよったザルツブルクは干渉」が生まれた土地であり、彼の生家を見物したり、「干渉」トキ」を買って込んだりする団員もいました。グラーツは「ミンヘン」とは違って、かわり、とても落ち着いた牧歌的な雰囲気を持った都市で、古きよきヨロツパの空気に触れることができました。到着の次の日は演奏会場となる、シムフアツェルで練習をおこない、ホルの響きを確かめることができました。そしてついに迎えた最後の演奏会の日には、このヨロツパでの時が永遠に続いたら良いのに、感激とともに別れを惜しむ声もありました。

私たちはこの公演を通じてさまざまな経験をしました。何よりもクラシック音楽が育まれてきた土地や町並み、空気に直に触れられたことは何ものにも代え難いものです。これらすべてを経験を活かすべく、現在は次の演奏会である六月十六日(土)の同立演奏会に向けて練習を重ねている真只中です。

このヨロツパ公演を企画し、実行するに当たってお世話になった方々、そし



て何より私たちの演奏を温かく迎えてくださるお客様にこの場を借りてお礼を申し上げます。

それにしても、本場の音楽文化もさることながら、本場のピルとソーヤジのすばしらかたごと！

海外公演実行委員会実務系責任者  
橋 亮輔（工学部三年次生）

## 第三回新島襄 記念法律討論会 開催

三月十日、同志社にて新島襄記念法律討論会が開催されました。本討論会は一九九五年度各大学間交流、法的思考力の深化発展を目的に慶応義塾大学法律会、早稲田大学創法会、そして私達同志社大学同法会の三サークルで共同開催した法律討論会を前身とします。一九九八年より私達同法会が主催運営する事となり、名称も新島襄記念法律討論会と改め現在にいたります。毎年三月に行われ、論題は実行委員会が依頼した先生に出題していただき、また、審査は出題者を始めとした大学教授と検事、弁護士といった実務家を審査員としてお呼びしお願いしています。本年度は刑法の権威でもある本校の大河實教授に出題を依頼しました。参加は慶応義塾、早稲田、中央、関西学院大、立命館、神戸、同志社の八大学にの



ほり、参加人数も三〇〇人近いものになり、その規模は年々拡大しております。本討論会は立論者、質問者共に一年次生のみ限定している点に大きな特徴を有します。その趣旨は、一年次生は法律を学んで間もないので、逆に既存の枠組みにとらわれない自由な解釈が期待できるという点にあります。この点は他の討論会では見られない特徴であり、それゆえ参加校を始めとする他大学の方々からは大変注目されています。

今年度で第三回を迎える討論会も無事終了し、実行委員一同胸をなでおろしています。またまた、若い討論会

ではありますが、参加校、参加人数を見ても分かる通り、飛躍的な発展を遂げています。今後も実行委員会を組織し、内部での検証を進め、本討論会がより多くの学生の法的思考力の発展の契機になり得るよう最大限の努力をしていきたいと思います。本討論会は非公開ではありません。興味のある方は次年度の第四回大会に足を運んで見て下さい。なお本討論会の様子、結果報告は同法会のホームページにて掲載いたします。よろしければそちらの方にも立ち寄りみてください。

新島襄記念法律討論会実行委員会  
広報担当浅沼博史（法学部二年次生）

## 本学教員の新刊

（総合情報センター調べ）

### 現代アメリカ契約法

ロバート・A・ヒルマン ほか編著

上田誠一郎 ほか訳

弘文堂 四、八〇〇円

### 入門・経済学 二新版

猪木武徳 ほか編 篠原総一執筆

有斐閣 二、七〇〇円

### 高等教育の変貌一八六〇—一九三〇

望田幸男 ほか監訳

昭和堂 五、七〇〇円

### 増補 グルー大使と日米外交

ウォルド・H・ハインリックス著

麻田貞雄訳 グルー基金 四、五〇〇円

### 聖教新聞の読み方

渡辺武達 三五館 一、三〇〇円

### 第三帝国の音楽

エリック・リーヴイ 著 望田幸男 監訳

名古屋大学出版会 三、八〇〇円

### 刑事訴訟法への招待

山中俊夫著 法学書院 二、〇〇〇円

### ナポコフ 短編全集

ウラジーミル・ナポコフ 著

諫早第一 ほか訳 作品社 三、八〇〇円

### 比較教育学の理論と方法

ユルゲン・シュリーパー 編著

松久玲子 ほか訳 東信堂 二、八〇〇円

### 近現代日本の新視点

中村政則 編 庄司俊作 執筆

吉川弘文館 九、〇〇〇円

### グローバリゼーションと市民社会

望田幸男 ほか編 大野節夫 執筆

文理閣 三、二〇〇円

### アジア・太平洋地域における社会権規約の履行と課題

アジア・太平洋人権情報センター 編

釜田泰介執筆 現代人文社 二、五〇〇円

### シリーズ 近代日本の知 第二巻

近代日本のアポリア

西田毅 編 晃洋書房 三、六〇〇円

### ゲルハルト・リヒター/オイル、オン・フォート、一つの基本モデル

清水穰 著 ワコウワークス・オヴ・アート

二、二〇〇円

### 日本と中国ことばの梯

佐治圭三教授古稀記念論文集

佐治圭三教授古稀記念論文集編集委員会 編

五村文郎執筆 くろしお出版 三、八〇〇円

### 経済成長と金融動機・利子・利潤

渡辺弘著 晃洋書房 四、〇〇〇円

### ケインズ経済学と失業・所得分配

渡辺弘著 晃洋書房 三、〇〇〇円

### 電気・電子回路解析プログラム

MEIPO入門

榎間良弘 編 雨谷昭弘 長岡直人

馬場吉弘執筆 オーム社 二、六〇〇円

### 日本美術を学ぶ人のために

岸文和ほか編 太田孝彦 佐藤守弘 執筆

世界思想社 二、八〇〇円

### 判例経済刑法大系 第二巻

佐々木史朗 編 川崎友巳 執筆

日本評論社 五、五〇〇円



## フレッシュマンキャンプ2001のご案内

大学は皆さんの働きかけがあればあるほど、輝きを増すところですよ。今回のキャンプも、積極的に同級生、上級生そして教職員らと語り合い、同志社大学での学生生活を有意義に送るためのきっかけをつかんでほしいと思います。

日 時：四月二十八日(土)

～二十九日(日)泊二日

場 所：同志社びわこトリートセンター

(滋賀県滋賀郡志賀町北小松)

募集人数：新入生(学部生)一〇〇名

応募多数の場合は抽選を行います。

参加費：九、〇〇〇円(宿泊費、食費、交通費他)

アドバイザーとして、各学部教員スタッフ、在学生スタッフ等が参加します。

「フレッシュマンキャンプ2001」申し込み方法

募集期間：四月(二月)十日(火)

申込み先：学生課窓口

(京田辺校地または今出川校地)

学生課の場所は学生便覧の窓口

紹介等を参照ください。

受付時間：平日九時～十七時

(十一時三十分～十二時三十分休憩)

土曜日九時～十二時

夜間(今出川校地のみ)

十八時～二十一時

参加決定者は四月十二日(木)十時

に両校地・学生課掲示板にて発表。

決定者には参加費納入等の手続きをとっていただきます。

## アッセンブリー

【演 題】魅せの

～自分を知らないあなたへ～

【講 師】藤原美智子さん

(今&メイトアドバイザー)

日 時：四月二十五日(水)

十六時四十五分～

場 所：神学館チャペル(今出川キャンパス)

【演 題】和谷泰扶ハトモの世界(仮)

【講 師】和谷泰扶さん

(ハトモ夫妻者)

日 時：五月二十三日(水)

十七時三十分開場  
十八時開演  
場 所：同志社大学会館  
(今出川キャンパス)

詳細は掲示板等でお知らせします。

出会いと発見の場

函館キャンパスに

あなたも参加

しませんか？

函館キャンパスは、同志社の創立者新島襄が一八六四年幕府を犯して脱出した地、北海道・函館で、新島襄の生き方を学び、同志社を見つめ、人と人との出会いやふれあいのなか、自己を省みよつ、という趣旨で行われます。参加者は教職員スタッフと共にグループを編成し、脱国の碑、訪問、ディスプレイ、フィールドワークなどのプログラムを自ら企画運営し独自のキャンプを作り上げます。過去の参加者から、学生生活最高の思い出ができた、学部・学年を超えた友人ができた、といった声が寄せられるこの函館キャンパスにあなたも参加しませんか？詳細は四月下旬、掲示板でお知らせします。

期 間：八月(十日)月二十五日(土)  
(五泊六日)現地解散予定

場 所：函館市青少年研修センター他

募集人数：男女各十五人 計三十人

参加費用：二万六千円(予定)

スタッフ：教職員三人(予定)

## @プログラム

「自然の中で思いきり活動してみたい」「先生や仲間とじっくり話してみたい」「以前からやりたかったことをぜひ体験してみたい」「こんな思いを抱く人のために、学生課では、先生「仲間」体験をキーワードに、体験プログラム「Act Together Program」@プログラムを実施します。

昨年度は、四万十川でのリバーアドベンチャーや岡山県黒島での無人島キャンプ、信州でのスノーアドベンチャーの三つのプログラムを実施しましたが、とりあえず本年度第一弾は、最後の清流「四万十川」で、昨年好評だったリバーアドベンチャー@四万十川を実施します。詳細は掲示板等でお知らせします。

期 間：八月七日(火)～十日(金)

十日は高知よさひ祭が開催されます。

(三泊四日、含船中一泊)現地解散

募集人数：三十人(他に教職員スタッフが同行)

参加費用：二万九千円(予定)

函キャン・@合同説明会  
函館キャンパスと@プログラムの説明会をあわせて行います。

五月二十一日(月)十七時

明徳館一番教室(今出川キャンパス)

五月二十二日(火)十七時

ラウンジ棟二〇一会議室

(京田辺キャンパス)

## 春学期 奨学生募集と 学費の延納・分納 について

二一 一年度春学期奨学生募集

【学部】日本育英会奨学金

出願期間

【京田辺】

一年次生以上

四月五日(木)～十日(火)

一年次生

四月十七日(火)～十九日(木)

【今出川】四月五日(木)～十日(火)

【大学院】同志社大学大学院奨学金

日本育英会大学院奨学金

出願期間

【京田辺】四月五日(木)～十日(火)

【今出川】四月五日(木)～十日(火)

出願受付は、いずれも土・日を除く、

三月二十三日より、奨学金出願の

「しおり」を厚生課奨学係で配付して

います。

学費延納・分納

手続き期間 四月一日(月)～二十七日(金)

厚生課奨学係で受け付けます。学

生証と印鑑を持参してください。

期間内に学費を納入できない人は

必ず手続きをしてください。

日本育英会

きぼう21プラン奨学金

九九年度からスタートしたこの奨学金は従来の第二種に比べ、学力・家計基準とも大幅に緩和された国の有利子貸与奨学金で二〇〇〇年度の採用状況は以下の通りです。希望者のうち有資格者全員が採用されています。

採用人数

(春期募集)・(秋期募集)

学部 一年次 四九人 二四人

二年次以上 二二人 一九人

大学院 前期課程 五五人 三人

合計 七四七人 四六八人

貸与月額

次の四種類から希望月額を選択する。

学部 三・五・八・一 万円

大学院 五・八・一・二 三万円

学 力

標準的な成績で順調に単位を修得し、

学業を修了しうる能力のある人

家 計

二〇〇〇年度モデルケース家計

学部 家族年収約一、三七三万円

以下(父就労、母無職、本人

文系自宅外、弟公立高校の

四人家族の場合)

大学院 本人等年収約五九五万円

以下

今まで日本育英会奨学金の有資格

者とならなかつた人でも採用の可能性

があります。返済総額や必要性を十分

考えたいうえ出願してください。

日本育英会

緊急・心急採用について

失職、破産、会社の倒産、病氣、死亡等または火災、風水害等による家計急変により経済的困難が継続すると見込まれる者は緊急(第一種)・心急(きぼう21)採用の対象となります。ただし、その事由が発生した時からおおむね一年以内に限り、二〇〇〇年度は五十二人(二〇〇一年二月現在)が採用されています。

## 早稲田大学 図書館との相互 利用について

本学総合情報センター(図書館)は早稲田大学図書館と閲覧、複写、貸借等について相互利用協定を結びました。この協定により、同志社大の学生・院生の皆さんは学生証の提示により、早稲田大学図書館・中央図書館・戸山図書館・理工学図書館・所沢図書館Xの入館と資料の閲覧をすることができ、図書個人貸出はできませんが、本学図書館に取り寄せて閲覧することは可能です。

## 医療費等 援助基金について

大学は二 年三月三十一日を

まわって解散した、同志社大学学生健康保険「組合」の残余財産の寄付を受けて、同志社大学医療費等援助基金」を創設し、次の事業を行っています。又科目等履修生、聴講生、外国人留学生特別学生、留学生別科生、大学院研究生は除く。不明な点は学生部厚生課にお問い合わせください。

厚生館保健センターでの保険診察

自己負担分の大学負担

保険診察自己負担分の月額三万円

を超えた部分の給付

(月額三三、六〇〇円が給付上限)

歯科検診(五八〇人)、ヤニ検査

(二四〇〇人)等の事業

## 第二十三回 外国文化週間

二一 一年度テーマ

『多面体としての戦争』

春学期テーマ「争いの人間学」

Human Contest Aspect.

期間：六月十一日(月)～十五日(金)

場所：同志社大学(京田辺校地) 恵道

館、知真館)

対象者：本学学生および教職員、一般

市民

入場料：無料  
主催：言語文化教育研究センター

講演 戦争と映画

高木 繁共言語文化教育研究センター

（助教）

日時：六月十一日（月）十三時十五分～

映画『ひまわり』

司会：Terry Ochi 言語文化教育

研究センター（助教）

日時：六月十一日（月）十四時十五分～

映画『赤いリリヤン』

司会：山田 眞實 言語文化教育研究

センター（助教）

日時：六月十二日（火）十三時十五分～

映画『マーブリアタック』

司会：遠藤 徹 言語文化教育研究

センター（助教）

日時：六月十三日（水）十三時十五分～

映画『シエルプールの雨傘』

司会：玉井 史絵 言語文化教育研究

センター（専任講師）

日時：六月十四日（木）十三時十五分～

映画『新しい神様』

司会：東 宏治 言語文化教育研究

センター（助教）

日時：六月十五日（金）十三時十五分～

## 新任教員紹介

今年度新たに八人の先生方をお迎えします。  
所属（学科） 職名 最終学歴 主な担当科目



石井久雄

（いしい ひさお）

文（文化） 教授 東北大学大学院文学  
研究科 日本文学基礎演習 他



立木茂雄

（たつき しげお）

文（社会） 教授 トロント大学社会福祉  
大学院 社会学概論 他



竹内長武

（たけうち おさむ）

文（社会） 教授 大阪教育大学大学院教  
育学研究科 新聞学実習 他



寺井基博

（てらい もとひろ）

文（社会） 専任講師 同志社大学大学院  
法学研究科 産業関係基礎論 他



櫻井利江

（さくらい としえ）

法（法律） 教授 東京都立大学大学院社  
会科学研究科 国際法入門 ・ 他



高岡正憲

（たかおか まさのり）

工（エネルギー機械工） 助教 京都大  
学大学院理学研究科 物理学 ・ 他



星 英仁

（ほし ひでひと）

言語文化教育研究センター 専任講師  
Graduate Program, Department of Linguistics,  
University of California 英語



Barbara B. Zikmund

（バーバラ B ジックモンド）

アメリカ力研究科 教授 ロネガ大学大  
院 英語

## 退職教員紹介

二 一年三月三十一日付で次の  
先生方が退職されました。

石井 裕二 神学部教授

玉村 文郎 文学部教授

辻村 一郎 文学部教授

佐藤 卓己 文学部助教

君村 昌 法学部教授

野間 俊威 経済学部教授

渡辺 弘 経済学部教授

小堀 至 工学部教授

棚橋 祐治 総合政策科学研究科  
および法学部教授

工藤 弘志 キリスト教文化センター  
助教

山下 隆之 工学部実験実習センター  
実験講師

姫野 有三 工学部実験実習センター  
実験講師

金丸 輝雄 法学部教授は、  
昨年十一月二十五日にお亡くなり  
になりました。

# 私は大学で何を学んだか

私はながらく学校では「真理」を学ぶ日常出くわす疑問には必ず正しい答えがあり、それを見つける為に知識を身に付けるのだと確信していた。私は小学校卒は当時の国民学校(の頃、教室で質問するのは先生で、先生の質問には必ず一つだけ正しい答えがある。生徒はその答えをなるべく早く見つける。早く手を挙げて、先生が期待している答えを出すのが勉強だと思っていた。

高校頃まで、先生のおっしゃることが正しく、先生の考え方に全幅の信頼を置いていた。あらゆる問題について、「正解はこれです」としてもらって来た。しかし、高三の頃から初めて「一方通行の教育」に、不満を感じるようになった。大学生になると書物や知識人達を通じて、人間の社会(宗教、文化、経済、政治)は勿論のことながら、自然界の色々なものもある見方をすれば、「こう見える、違った見方だ」と「こうだと学ぶ機会が出来た。

ゆっくりと思索することを覚え、答えのないもの、まだ答えの分らないものが沢山あることが分る様になった。人間の社会も、われわれを取り巻く自然も、マニュアルや、いわゆる教養書式には動かないことを悟った。しかし自分はお教室では引込み思索で、受け身な性格でなかったかと思う。他人の話を良く聞いて、情報を出来るだけ多く取込もうと

するのだが、積極的に自己の主張を伝え、自説を売り込むような図太さはなかった。したがって、発言しても議論をリードしてやろうといった厚がましさはなかった。

アモスト大学に到着して、「アメリカ研究」と言うコースをとる様に告げられた。三回生でありながら、二回生の必修科目を一年間続けるという命令であった。このコースは全米最初にアモストで始まったもので、アメリカ文明の問題点」という副題が付いていた。しかしこのコースが強調したのは、賛否両論、保守両派等で分析に違いの出る歴史の流れの「問題点」を学び、自己の論拠を明確にすると共に、納得の行く知的な主張をすることであった。複雑多様な現実を分析し、対応能力と決断力を育もうとする教育であった。

語ること、疑問を挟むこと、謎解きに知的な刺激を感じ、凝固した「正論」に挑む。

社会の殆ど総ての現象については、いつの世にも分析や判断が異なるのは当然である。各々個人が知性に頼り論理的に分析して、「真理」を究める努力を重ねるしかない。

そのために知識人が資料をいかに使い、どの様な方法で論拠を固め、自己の主張に説得力を与えるか。これを学ぶのである。

「積極的に」討論したり、議論したりする

ようになった。議論して相手の気持ちを損ねたこともあったが、自分を売り込んだり、自説に他人を引き込んだり出来る様にもなった。大学院へ行った後には、大学教育に携わることにもなつて、これが役にたった。

私が学生だった頃から、同志社の明徳館中央入口右側を少々見上げると、格調高くラテン語で、「真理は汝を自由にする」と言う標語が掲げられてある。



かねだ ひろみつ  
金田 弘光

アメリカ研究科教授

1934年生まれ。同志社大学経済学部卒業。アモスト大学卒業。スタンフォード大学大学院博士課程修了。Ph.D. M.A.。専門は開発経済。カリフォルニア大学デービス校 経済学部教授、イエール大学経済成長研究所客員教授、世界銀行開発経済局上級エコノミスト、アジア経済研究所客員フェローなどを歴任。

Hiromitsu Kaneda

# アート・プロデュースの試み

古い話で恐縮ですが、昨年度の秋学期はじつめ二〇〇〇年十月の一週間、今出川キャンパスの中心にある明徳館一階ラウンジが少し風変わりしたことを覚えていらっしゃいますか。普段は椅子がおりてあり、学生の皆さんが昼休みなどに休憩する場所なのですが、この時期には、壁にアジアの風景の写真が一面に貼ってあったり、奥では音楽と映像の洪水状態だったり、中心には天井から吊りしたカーテンがつくる小部屋があったり……というラウンジ空間に変わりました。

実は、これは、私の文化経済学部の学生が仕掛けたアート企画展でした。なぜ経済学部のおびきアートなのかと思われるでしょうか。私たちの趣旨としては、作品発表の場が少ない現代アートの作家達に無料でスペースを提供したい、作品を大学の日常に持ちこてることによって現代アートを身近に感じる人が増えて欲しい、そしてこの二つによって現代アートを取り巻く経済的状況の改善に少しでも貢献したい、という二つでした。

大学の協力で、天井が高く立地条件のよい場所を借りることが決定したが、展覧会の開始に溯ること半年前。それから、作家の選定と交渉、ボディーやチラシの制作、作品の搬入など、全てが学生の手作りで行いました。会

期中は朝九時から夜十時近くまで開けていたため、特に中心になった学生は、ほとんど明徳館ラウンジで暮らしていたほどです。

さて、このプロジェクトにより、いろいろと面白いことがありました。特に私が興味深く思ったのは、鑑賞者開発がプロジェクトの本来の趣旨だったにも関わらず、企画展の会期最初は、かえって皆さんがラウンジに入りにくく感じて遠ざかってしまったという事実です。ラウンジとしての機能はそのままアートが加わっただけ、と思うのは私たち関係者で、普通の学生や教職員の皆さんにとってはアートが居心地の悪さにつながったのでしょう。これはシボクでした。アートのマーケティングが重要だ、などと授業や講演で話すことはよくあるのですが、それを実施する側にまわってみると、いかに難しいことか！

とはいうものの、会期中頃からは展覧会が次第に定着し、人々が自然に素直にアート空間を楽しんでいると見えるようになっていきました。リピーターも見られるようになって同時に、じっくりと作品を見る人や、コメントを残していく人なども増えました。

しかし今度は、アートへの興味を持ってもらったのはよからなければ、それをどうやって持続させたらよいのだろう、という疑問が私に

ちに湧いてきました。強い興味を持った人は、ギャラリーなどを自分で訪れるようになるかもしれませんが、大部分の人は、そこまでのアクションを起こさないと。育ちかけたアートへの興味に、私たちが応えることなく逃げてしまつたのは、かえって残酷なのではないでしょうか。学生のプロジェクトとしては大きな成果をあげたものの、私の研究にとっては考え込まれる二週間でした。



かわしまのぶこ  
**河島 伸子**

経済学部助教授

東京大学教養学部教養学科(国際関係論専攻)卒。電通総研研究員、英国ウォーリック大学文化政策研究センターリサーチフェローを経て、1999年同志社大学に入社。社会政策・行政学修士(ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス、大和新聞戸フェローシップ)、文化政策学博士(ウォーリック大学)。専門は文化経済学、文化政策論、アート・マネジメント論。

Nobuko Kawashima

# VIDEO

谷本 啓

【商学部 専任講師】

## 「米国自動車工場」再建の物語

バブル経済崩壊後の一九九〇年代は、こ存じのよ  
うに「失われた十年」と呼ばれるほど日本の経済は  
停滞しました。それは基幹産業である自動車産業も  
例外ではなく、十一社ある自動車メーカーのうち、  
外国資本の入っていない企業はトヨタ系企業とホン  
ダだけとなりました。フォード傘下に入ったマツダ、  
ルノーと提携した日産、そしてタイムラークライス  
ラーに支援を仰いだ三菱自動車にはそれぞれ外国人  
の経営者が送り込まれ、経営再建をはかっています。

しかし、その十年前の一九八〇年代は現在とは全  
く逆で、日本の自動車メーカーは米国市場を主戦場  
として繰り広げられた国際小型車競争で主導権を握  
っていました。日本車の高い品質と性能、そしてト  
ヨタの「かんばん方式」に代表される日本企業の効  
率的な生産方式は、欧米の自動車メーカーに対して  
圧倒的な優位性を誇っていました。

この映画は、そんな時代のあるアメリカの自動車  
生産工場の物語です。業績が悪化したため工場の閉  
鎖が決定され、住民たちは代わりに日本の自動車メ  
ーカーを町に誘致して工場の再建をはかろうとしま  
す。しかし、会社第一主義の日本人管理職たちが個  
人主義のアメリカ人労働者を訓練・教化しようとし  
る過程は様々な軋轢、摩擦、抗争が生じ、この作品  
でその様子をコミカルに描いています（さらに作品  
中には、日本の会社員の「地獄の特訓」や素っ裸で  
川で冷水浴する場面など、色々な意味で日本につい  
ての名場面と迷場面が入り混じっています）。しかし、  
この作品は単なるドタバタコメディではなく、日本  
人の働きぶりについて身につまされる場面が多々あ



## 『ガン・ホー』

1986年 アメリカ  
監督：ロン・ハワード 出演：マイケル・キートン他  
発売元：CIC・ビクタービデオ 価格：14,830円(税別)

ると同時に、アメリカ人自身が、日本企業との競  
争に負けつつある現実を目を向けようと努力する姿  
勢を感じることができる作品です。また、工場での  
作業を撮影した場面では当時既に日本ではロボット  
が行っていた作業を人間が行っていたりなど、日米  
の自動車工場の様子の違いもつかがい知ることがで  
きます。

私たちは誰のために、何のために働くのか、この  
作品を見ながらあらためて考えるのも一興かもしれ  
ません。

本学教員の推薦する

# BOOK

小寺 政人

【工学部機能分子工学科 教授】

物質と生命について考えよう

昨年の六月にヒトゲノムが全て解読された。この事実によって、科学、医学、経済を含めた世の中の流れが水stoffゲノムへと向かって突き進んでいる。また、クロニン技術の進歩により、数年前にイギリスでクロニン羊のドリーが生まれ、イギリスなどでは、研究に限らずではあるがクロニン人間が許可されつつある。二十世紀の最後に来た、分子生物学が人間を研究対象にし始めている。二十一世紀は、間違いない、分子生物学と人間とがはつきりと向き合っていくかなければならない時代だといえる。そこで、私は、学生の頃に読んだ、偶然と必然」という本を紹介したい。この本は、一九七〇年に、当代理最高峰のノーベル賞受賞分子生物学者であるジャック・モノー（フランス人）によって記述されたものである。この本の中で著者は、生命が物質であるということを示し、その事実をへインスにして、分子生物学に限らず、人類の過去から現在までの思想、哲学について考察している。この本が出版されて、数日以内に数十万部が売れたそうである。また、その内容は、ヘーゲル、マルクス、ベルクソン、テイヤーなどの思想にまで及んでおり、思想界から多くの批判を浴びたとされている。私の浅学のために、思想・哲学の記述についてはその註議の程は明らかではないが、ジャック・モノーの専門である分子生物学の記述は全く正しいものであり、彼は、既に三十年前、生命の本質が物質であることを分子生物学の立場から説明している。また、生物の特徴は、DNAに基づき、個体の再生であり、この再生の過程は、全く必然的に繰り返されること、そして、そのDNAは全く偶然に書き換えられる事を示している。この偶然が必然となり繰り返されるのが生物の進化である。人間が思索し、創造していく能力は、進化の過程で獲得したものであり、人類の祖先がある時、何かを思い描くようになって、その進化

のベクトルを作ったとしている。DNAの書き換えは全く偶然におこるものだが、進化には方向性があるということとが興味深い。魚がある時、陸地を目指したが、その両生類が生まれ、やがて人類が生まれたのだという説明である。現在のDNAに関する研究の進歩は、人間の進化と関係があるのであるか？最初に示したように、二十一世紀は、人間と分子生物学の時代であり、初期の分子生物学者が残したこの本をもつ一度読み直してみるのは価値があると思われる。この本は、フランス語で書かれ、多くの国で翻訳されている。日本語には、慶應義塾大学名誉教授の渡辺格氏などによって訳されている。渡辺先生は、日本人でただ一人、ノーベル賞を受賞されている利根川進氏の京都大学時代の恩師であり、日本の分子生物学の生みの親的存在としても有名である。ジャック・モノー、渡辺格、利根川進はいずれも化学の出身である。生命が物質であるということとを考えると、二十一世紀における化学の役割は益々大きなものになるのかもしれない。



『偶然と必然』

1970年 ジャック・モノー著  
発売元：みすず書房  
価格：2,400円(税込)

My Job  
My Life

マーケティングから  
国際線客室乗務員へ  
転職で始まる新しい挑戦。

大学を卒業後、私は学生時代から温めていた思いを胸に、マーケティングリサーチの会社に就職しました。調査データを分析し、マーケティング戦略の方向づけを行いクライアントに提案していく仕事は、私の望んでいたものであり、続けていけば必ずスキルアップできるといふ実感を抱くことができました。その一方で、朝八時から夜十一時まで続く集計・分析ワークに、体力的にも精神的にも疲れが自分の中にたまっていくのが分かりました。これではいけないと上司にお願いして、週一日だけ定時退社させてもらい、仏語会話教室に通うことになりました。その教室で出会うたのが現在勤務する航空会社の先輩にあたる方でした。

国際線の客室乗務員という華やかな職業そのままに、輝いて見えました。仕事で訪れ

# My Life. 仕事

第11回

が仕事を通して見た「社会」とは？  
ことの意義とは？

う先輩の声に耳を傾けながら、  
生生活の現実を考える機会にしたいものです。



た国々の文化について語り、ワインにうんちくを傾けるそんな自分とはまったく違う生き方に触れて、将来について考えてしまいました。今の仕事を続けることで得られるものと失うもの。とくに家庭を持った場合の時間的な制約を考えると、どうしても気持ちがぐらついてきます。そんなとき、その方の会社が既卒採用を行うという情報を得て、私も応募してみることにしました。一九九八年の春のことでした。

幸運にも採用の通知をいただき、国際線への配属も決まりました。三カ月間の研修を受けた印象では、マニュアルに基づいた非常時の訓練など、予想以上にきついもので、この思いは飛行機に搭乗してさらに強まりました。四日勤務して三日休むというローテーションは一見ゆとりと見えますが、実際に勤務してみると時差ほけもあり、体が慣れるまでは大変です。しかし、このローテーションを上手に活かすのが私の当初からの願いでした。仕事に慣れた二年目からいろいろな考え始め、まずテーブルマナーを習うことにしました。そのころ、語学について、英語、中国語

に加え、タイ語を学ぶことにしました。その理由はとても単純で、お客様としてお迎えするタイの人々に好印象を抱いたからです。大学のゼミでWTQ世界貿易機関について学んだ私にとって、諸外国をまわり、身近に異文化を体験できる環境はとても魅力的で刺激があります。もう一度自分を高めたいけそうながしています。

学生時代に職業について想像するのは、やはり限界があります。どんな職業を選んで、必ずと言えらるほどの現実の壁にぶつかりま。そんなときは、もう一度自分の原点にもどって考え直す余裕が必要でしょう。そして、一旦決めたら壁にぶつかっても頑張り抜いてほしいと思います。壁を乗り越える力になってくれるのは、学生時代に何かに打ち込み、やり遂げた自信です。先輩の皆さんには、「学生時代、私はこれをやったと言えるものを持って、社会に飛び出してほしいと願っています。」



小島 摩希子さん

【1997年法学部卒業】

全日本空輸株式会社 客室本部 成田客室部所属 客室乗務員

## PROFILE

一見しとやかに見える小島さんだが、「熱い学生時代を送りました」と語るように、行動的な学生だったようだ。電気研究会の活動のほか、もつといろいろな人と知り合いたいと函館キャンパスに参加し、現地解散後、有志の仲間たちと北海道一周も体験。ゼミの学友たちと、夜を徹して議論することもしばしばあったそうだ。話題は、主に日本の政治経済からちょっとした身近なことまで様々。そんな小島さんが「学生時代を京都で過ごせたことは、私の何よりの財産です」と語ってくれた。

文学青年とはとても言えない私が編集者になるうとは、誰が想像したでしょう。しかし、父の書棚に並んだ書物をながめながら子供心に芽生えた「本を作ってみたい」という思いがずっとくすぶり続けていて、みんなが就職活動をはじめた頃には、出版業界に就職しようと思いを固めていました。ママミでなく出版、しかも良書を発刊している出版社からの求人はいくつも根気強く就職活動を続け、茶道や日本の伝統美術に関する出版物を長年にわたり多数発刊してきた淡交社に編集者として入社しました。

最初の五年間は、主に月刊茶道誌を担当。裏千家のお家元や若宗匠の文化外交に随行して、マレーシアのムハティール首相邸や中国の天安門広場の人民大会堂に入ったり、ロック

## シリーズ

『ONE PURPOSE』では、さまざまな分野で活躍する先輩を訪ね、毎月「私と仕事」をテーマにお話を伺っていきます。

# 私と「My Job,」

社会へ出てかれこれ？年。先輩たちあるいは「生きる」

歩んだ道も経験もそれぞれ違将来の自分にふさわしいキャリア・プランと学

My Job  
My Life

本の魅力を見直して  
もらうためにも読者の  
心に届く良書を  
つくりたい。

シンガーのミック・ジャガーと対面するなど、信じられないような貴重な体験ができました。取材後の、記事をまとめる苦労と充実感を今も思い出すことができます。その後、もともと志していた一般書の編集担当となりました。単行本は一冊ごとが勝負であり、自分が携わった本が書店の店頭に並ぶ頃、お客様は手に取ってくれるだろうか、と立ち読みのふりをしてそうと反応をうかがったこともありました。

そんな本の一冊に、四年以上も自分の中で温めやっと出版にこぎつけた。日本の文学館百五十選があります。地元が生んだ文学者の世界を温かく育んでいる文学館を紹介するもので、文学の魅力の一面を伝える格好のテーマになると考えたのです。予算のこともありますが、多くの文学館が経営難にあえぐ現状を変える手助けをしたいという思いもあり、原稿執筆は各文学館の学芸員の方にお願ひ、存分に館の魅力をアピールしてもらいました。本はそこそこの売れ行きで、担当者としてはひと安心といったところです。一出版人として私は、「良書は必ず人の心に届く」と信じていますが、出版も営利活動ですから事



## PROFILE

北原さんは、大学では釣研究会に所属。高校時代もバドミントンに熱中するなど、体を動かしているのがとにかく好きだったという。その一方で、萩原朔太郎の詩集を愛読したり、釣研究会が発行する会報『釣川海』に長文を寄稿したり、学生街の喫茶店でアルバイトをしながら、文化的な雰囲気に関心したりと、出版界への道を着実に準備していたようだ。そんな北原さんが今目標としているのが、ほのぼのとした本で世の中を楽しませたいということ。「どきどきするテーマであるのとは別の方法で結果を出したい」と語る。



北原 一平さん

【1993年法学部卒業】  
株式会社淡交社 編集局勤務

業として成功させなければなりません。執筆者やカメラマン、デザイナーなどとの意見調整にしばしば苦労するものこの点です。それだけに、皆の意向がびったりと合ってほしいの本にまとめた時は、本当に嬉しくなります。

私は熱心な読書人ではありませんが、寝っ転がりながら読んだ一冊の文庫本に人生観さえ変えられてしまっほどの衝撃を受けたこともあります。伝統芸術については門外漢ですが、編集者としてその精神に触れるたびに、住み慣れた京都の風景が違って見えつねに新鮮な刺激を受けています。

出版業界をめざしながら、就職が決まらず、同じ業界志望の友人たちと勉強会を重ねてやっとなどり着いた現在の仕事。自分が思い描いていた通りの日々が送れる幸せを噛みしめるとともに、後輩のみなさんにも自分の進みたい道を見極め、大きな妥協をすることなくねばり強く目標に突き進んで欲しいと思います。

# ANNOUNCEMENT

## What's on Thursdays! =WOT (ワット!)

プログラムはすべて無料です。

【場 所】大学会館  
【時 間】16:45分~[1回目] 19:00~[2回目]  
は別時間帯になります。



### 日本映画を観る~日本映画の現在進行形

映画へのあくなき挑戦

- 4月12日(木) 「ざわざわ下北沢」  
監督:市川 準 '00年 105分 主演・北川智子さんトーク予定
- 4月19日(木) 「スリ」  
監督:黒木和雄 '00年 112分
- 4月26日(木) 「雨あがる」  
監督:小泉巽史 '00年 91分  
さわやか、ほろにが、映画の新しい感性

- 5月10日(木) 「だれも知らない夏の空」  
監督:中 治人 '99年 79分 中監督トーク予定
- 5月17日(木) 「独立少年合唱団」  
監督:緒方 明 '00年 129分
- 5月24日(木) 「ナビイの恋」  
監督:中江祐司 '99年 92分

日本映画の新たな展開

- 5月31日(木) 「Mr.Pのダンシングスシバー」  
監督:田代廣孝 '97年 90分 田代監督講演予定
- 6月7日(木) 「カリスマ」  
監督:黒沢 清 '99年 103分
- 6月14日(木) 「五条霊戦記」  
監督:石井聰瓦 '00年 137分 16:30~ 19:00~
- 6月21日(木) 「弟切草」  
監督:下山 天 '00年 85分 13:00~ 16:45~  
「狗神」  
監督:原田真人 '00年 105分 14:45~ 18:30~
- 6月28日(木) 「BROTHER」  
監督:北野 武 '01年 114分

サマーコンサート

7月5日(木) サマーコンサート in 同志社(詳細未定)

## 新入学生歓迎特別講演会

【日 時】4月13日(金) 15時30分開演  
(開場は関連プログラムの関係で14時30分とします。)  
【場 所】京田辺校地・多目的ホール  
【演 題】『世界が学びの場』  
【講 師】加藤登紀子さん(歌手、国連環境計画親善大使)

## 就職部からのお知らせ

学生諸君の就職活動支援のため、大阪、東京にオフィスを開設しています。パソコンでの企業情報検索および時間待ちにぜひご利用ください。

大 阪  
【住 所】〒530-0001大阪市北区  
梅田1丁目11番4-300号  
大阪駅前第4ビル3階301号  
【開室期間】4月2日(月)  
~2002年3月30日(土)  
【開室日】月曜日~土曜日  
【開室時間】10時30分~18時30分



東 京  
【住 所】〒150-0042東京都渋谷区  
宇田川町19-5-101  
同志社大学東京アカデミー内  
(東京山手教会奥)  
【電 話】03-3496-3015  
【開室時間】月曜日~金曜日 10時~17時  
土曜日 10時~12時



### お便りをお待ちしています

『ONE PURPOSE』は、学生のみならずと大学とのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。本誌に関するご意見や企画のご提案、日頃学生生活を送っている中で気づいたことや疑問に思うこと、また悩んでいることなど、ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までお寄せください。

## ONE PURPOSE

<ワンパーパス>

同志社大学通信126号

2001年4月1日(4・6・10・12月年4回)発行

発行 同志社大学 広報課  
〒602-8580 京都市上京区今出川通丸東入  
TEL.075-251-3120 FAX.075-251-3080  
E-mail ji-koho@mail.doshisha.ac.jp